

I - B - 8

帯状疱疹後神経痛の漢方製剤による治療

名古屋大学医学部皮膚科

○三田哲郎

【目的】帯状疱疹後神経痛（以下PHNと略）の有痛部位が片側性であることに着目し、PHNにサーモグラフィーを施行し、有痛部位の温度状態を観察した。さらに、患側の温度状態に応じて漢方製剤による治療を施行し、その前後における自覚症状およびサーモグラフィーの変化を観察することで、PHNに対する漢方製剤の効果を検討した。

【方法および対象】帯状疱疹発症1ヶ月经過後に残存する疼痛をPHNとした。田中の虚実判定用実証Scoreを用いて、PHNの患者を実証、中間証、虚証に分類した。PHNの16例にサーモグラフィーを施行し、有痛部位をhot thermogram, normo thermogram, low thermogramに分類した。hot thermogramを熱証、low thermogramを寒証と考えて、中医学弁証からhot thermogramを呈する症例には熱証を改善する清熱剤と瘀血を改善する活血化瘀剤を、low thermogramを呈する症例には寒証を改善する温裏祛寒剤を使用した。

【結果】PHN 16例中、実証 7例、中間証 2例、虚証 7例が認められた。実証の 5例にhot thermogram、虚証の 2例にlow thermogramが認められた。hot thermogramには清熱剤と活血化瘀剤の合剤（白虎加人参湯合桂枝茯苓丸、黄连解毒湯合桂枝茯苓丸）が、low thermogram（修治賦子合桂枝加朮附湯）が奏効した。

【結論】PHNは片側性疾患であることからサーモグラフィーによる検索が有用であり、その所見と虚実証を組み合わせることで、PHNに有効な漢方製剤の選択の助けとなるものと思われた。